

社員対談 第1弾

入社して日が浅い2人の技術者に、先輩社員が話を聞きました。

測量部 × 設計部



Aさん

32歳 入社3年目
九州測量専門学校卒業

前職 障害者支援施設に勤務。
退職後 九州測量専門学校を経てワコーへ入社
現在は測量チームの一員として、現場を測っている

測量の道へ進むきっかけ
⇒先輩の話聞いて九州測量専門学校へ入学し、
就職活動でワコーへ入社。




Bさん


33歳 入社5年目
九州大学工学部卒業


前職 アパレル会社 勤務
退職後 Uターンしワコーへ入社
設計部では、主に構造物の設計を担当している

設計の道へ進むきっかけ
⇒大学で造船を専攻し、その後服作りに関わり、
Uターン後も「ものづくり」をしたいと考えワコーへ入社


ー「それではインタビューを始めます。比較的ワコー歴の浅い2人ですが、ワコー全体や所属部署の雰囲気はどうか？」

 **Aさん** 「入社した時から明るい雰囲気だと感じています。部の上司とも話しやすいし、何かあったときに意見を出しやすい環境だなと思います。」


 **Bさん** 「私の場合は入社して2週間で創立50周年記念ハイ旅行に行ったというのもあって、明るくて活気のある会社だと感じました。」


 **Aさん** 「私は入社2週間で熊本地震でした。。。」

—「対照的だ。すごい違い。」


 **Bさん** 「設計部では、基本的にみんな仕事に集中していますが、時には笑いもあってメリハリがあると感じています。」


—「設計部、確かに日常的に会話が多いですね。ワコーは離職者が少ないんですが、異業種の経験もある2人から見て要因は何でしょう？」

 **Aさん** 「雰囲気がすごくいいことはもちろん、資格を取って待遇のアップを目指せるところかなと思います。」


 **Bさん** 「会社の業績が安定していることと福利厚生が充実していること、雰囲気の良さが要因かなと思います。」


—「入社前のこの業種の印象と実際働いてみた感想は？」

 **Aさん** 「知らなかったです。父が土木設計技術者だったので、父がやっている仕事というイメージしかなかったです。経験してみると、いくつも業務があって業務毎に一つずつ完結させていくという分かり易い仕事だと思いました。始まりと終わりがあるので出来上がったときに達成感がありますし、次への反省もできます。とても分かり易いと思います。」


 **Bさん** 「(測量している人を見て)道路で何か測る仕事なのだろうなというくらいの印象でした。実際設計の仕事に携わってみると、日々勉強の必要性を感じています。基準書が山ほどあって、分からないことは調べての繰り返しで、本当に日々勉強だと感じています。」


—「現在携わっている仕事は何ですか？また、仕事の面白さってどんなところですか？」

 **Aさん** 「最近阿蘇の現場で平面測量をしていました。今週は新入社員研修の路線測量のサポートをしており、再来週は橋梁点検支援の予定です。面白さという部分だと、昨年担当した橋梁点検は大変でしたが1橋1橋終わる毎に達成感を味わえて面白かったし、勉強になることも多かったです。自分の足りない部にも気付くことができました。」


 **Bさん** 「現在は道路部門が多いです。それに伴う擁壁やのり面の構想物の設計をしています。複雑な地形や条件があってすんなりいかない事があった時に、『あー、こうだな』『こうすればいいんだ』と解決策を見つけた時は面白さというか、やりがいを感じます。」


ー「仕事をする上でマイルールのようなものはありますか？」

 **Aさん** 「大切にしているのは情報伝達です。周りとは噛み合わなかったら業務を進める上で支障が出てくるので、相手に言うだけではなくきちんと伝わっているかどうかの確認をしています。」


 **Bさん** 「業務の始まりから終わりまでを一つのストーリーと考えて仕事をしていくことを心がけています。業務目的があってその目的のために現地調査をし、それを踏まえて設計を行って、その設計にも理由があるという一連の流れを意識しています。」

ー「経験した中で大変だったことはありますか？」


 **Aさん** 「測量部の業務で始めから終わりまで関わることがなかった中で、昨年度の橋梁点検業務は始めから終わりまで関わって、全83橋分の損傷を調査し図面を起こしました。橋梁に関わることも初めてで、『橋梁とは何ぞや?』という状態でのスタートだったので、上司にみっちり手解きして頂きました。初めてのことに挑戦するのは大変でしたが、楽しみも多かったです。」


 **Bさん** 「私は2年目の熊本地震ですね。前震翌日の早朝から、割り振られた益城の現場を調査し、その後測量と災害の設計までを期間が短い中、迅速に対応しなくてはならず大変でした。もう一点、以前道路への落石対策の業務があったのですが、山上の落石発生源を調査すべく山に登る必要がありました。落石が起こるような山ですので、とても険しく大変でした。体力的な自信はないのですが、仕事に対する使命感や責任感と言いますか、この業務を担当するからには『自分がやるんだ』という強い気持ちを持ち、山に登りました。なぜ危険な山に登るのか、そこに落石発生源があるからです！」

ー「一同笑」


 **Bさん** 「この山に何としても登らなくてはならない、これは覚悟してやらなければならない、と。」


ー「今後の個人的な目標を教えてください。」

 **Aさん** 「現場を任せられるチームリーダーになることです。そのために日々勉強しています。関連する資格があり、何を取得するか考えています。」


 **Bさん** 「私も資格取得が大きな目標です。設計の資格にも色々ありますので、管理技術者や照査技術者になれる資格を目指していきたいです。受験条件に必要な経験年数を満たしていない資格も多いので、その年数に達したときにできるだけ早い段階で取得できるよう今のうちから勉強を始めています。」


ー「自身も含めたワコーの将来像は？」

 **Aさん** 「今の社風を保ちつつ業績を残していけるように一人ひとりが自分の仕事の役割を意識する会社にしていきたいです。」

 **Bさん** 「将来的に、先細りと予想される建設業界において厳しいながらも勝ち残っていく会社にしなければならぬと思っています。そのためには実績はもちろんですが、この業界で最も難関と言われる資格『技術士』を持つ人材が増えていくことが会社の力となり、発注者や他社からも認められるのではないかと思います。将来的に、自分もその一人になりたいと思います。」

ー「就職活動中の学生、U・Iターンを含めた求職者へ向けて」

 **Aさん** 「どの業種にも共通することだとは思いますが、入ってからの勉強が大切です。学校で学んだ知識を活かしつつ、その後にしっかりと勉強ができると、どの業種でもやっていけると思います。ですので、是非ワコーへ!」

 **Bさん** 「入社後日々の勉強が重要だと思いますので、学生時代に土木や建設関係の勉強をしていなくても問題はないと思います。業務をやりながら勉強していけますし、資格取得でステップアップにもなります。学部や学科という線引きに捕らわれなくても、ものづくりに興味や関心があればいいのかなと思いますね。非常にやりがいのある仕事ですので、是非ワコーと一緒に頑張りましょう!」

ー「皆さん、ありがとうございました。」